

2007年12月2日発行

# 全国146施設から426名が富山県宇奈月へ

21老福連第7回職員研究交流集会は、宇奈月温泉、セレネ国際ホールにて開幕、全国から426名の仲間が集まりました。オープニングのシンセサイザー奏者・滝沢卓さんは、雄大な立山の自然の映像をバックに平和への願い、富山の公害病「イタイイタイ病」など理不尽な事への怒り、喜びも悲しみも共有していけば自分さえよければいい、という事はなくなる、「命は響きあう」という願いをこめて演奏されました。



実行委員長：

小西しらいわ苑施設長のあいさつ

この1年間、全国の仲間の支援を受けて準備してきました。全国から集まった実践を学んで元気をもって帰ってください。



富山県黒部市長さま、金岡富山県社協会長さまよりご挨拶を頂戴いたしました

とやま虹の会理事長  
犬島肇さんのあいさつ

新鮮でみずみずしい「きときと」の援助実践を「信」を「通じる」、通信=コミュニケーションして地域と力をあわせて介護の充実にむかって前進しましょう。



## しおかぜ荘松井施設長より、中越沖地震復興支援への御礼ととくみ報告がありました。

「21老福連のみなさんから寄せられた368万円の復興資金、14施設25日間114人の人的支援にあらためて御礼申し上げます。ピークにはショートステイ78名を受け入れました。大きな地震を続けて経験し、多くの課題も見えてきました。やはり一つの施設では対応に限界があり、支援と連携、何よりマンパワーが大事だと実感しています。」



柏崎刈羽福祉事業協会：田中理事長からの御礼のメッセージが読み上げられました。

発行 21・老福連第7回職員研究交流集会 実行委員会事務局 特別養護老人ホームしらいわ苑  
〒939-3535 富山市水橋新堀17-1 【E-mail siraiwa@nijinokai.net】

参加者の声 ●映像と合わせて聞くと音の表現するものが心に染みる。人間の悲しさが伝わった（岡山 相談員 女性）

# 21老福連 廣末利弥事務局長からの問題提起



21老福連は「現場でのたゆみない実践」「失われつつある公的福祉の充実・確立」を目指している。リーフレットを現場で語り合い、求められているもの、めざすべきものについて論議していただきたい。貧困が増えて格差社会が進行し、公的福祉を変質させる構造改革・規制緩和の矢面に一番立たされているのが介護保険。①職員の社会的地位・給与の改善 ②働きがい生きがいもてる仕事内容（事務に追われている）が人材確保・育成のカギ。福祉は工場と違って安く作って安く売るといった仕事ではない。分科会を含め3日間でみんなで考えたい。

## シンホウシンワウ ～それぞれの思い、ひとつに集めて～ 福祉の原点に立ちかえる

介護というのは誇りの持てる仕事。母親のような無償の慈しみ、安心の介護が母の胎内にいるような安らかな旅立ちへとつながる。心を開いてもらうにはより良いインタビューが必要。あなたの事が知りたいの、私の事もわかってほしいの、と伝え答えやすい質問を。最近「家に帰りたい」との訴えが減ったのは介護の質の向上のためだと思う。利用者さんの小さな眩きを質の向上へつなげられるように、職員のみなさんは健康第一に、笑顔でいられるように頑張ってください。

富山市介護相談員 斎藤真子さん



忘れ難い人たちとの出会いの30年、十人十色その人らしくお世話するには社会的な支援が必要。入居待ちの家族に2~3年待ちと伝えると泣かれる。介護保険は生身の人間を介護度によって利用制限するのが欠点。待機者家族会で市へ行政交渉を行い、独自の調査をさせた。行政への働きかけと、現在の制度をフル活用して憲法25条を空洞化させないとりくみを。

やすらぎホーム相談員 山口修治さん

とやま型デイはいろんな人を預かる。地域のつながりが弱まる中でご近所の犬も…。施設のPTしていたが「入りたくない施設・受けたくないサービス」そんな仕事で給料もらえない。みなさん自分の施設に入りたいですか、施設のお風呂に入りたいですか。私は自分の受けたいサービスを実践している。みなさんもそこから考えてみて下さい。

デイケアハウスにぎやか 阪井由佳子さん



地震では水が一番困った。居室をつぶしてポータブル4つ置いたり尿取りパッドを使ったり。事後処理として介護保険の請求や契約書、ケアプランが大変。労働環境は厳しいですが、お年寄りとのふれあいは楽しい。大変だ、という思いに陥らず、少しでも「悪くねえな」と思ってもらえるよう頑張りましょう。

しおかぜ荘 西巻雅人さん

## 昨日の提起、シホを受け分科会で共有財産をつくろう

●研修と言うときれいな事ばかりだが今日は現場の言いたい事が素直に出てよかった（熊本 介護職 男性）